

第 1 1 9 回古民家歴史部会歴史探訪

「東海道野宿場探訪シリーズ・第 14 回」

平成 29 年 7 月 5 日 (水) 「藤沢宿 (1)」

集 合 : J R 藤沢駅改札口(2 階) 9 時 50 分集合(時間厳守)

(1)行 程 : 下記探訪先と同じ

(2)食事場所 : 自由行動

(3)探訪 先 : J R 藤沢駅改札口(2 階)・スタート

- ① 庚申塔 : 青面金剛像・寛文 13 年(1673)両脇侍と共に市指定文化財。弁財天道標。
- ② 江の島旧道(道標) : 江ノ島弁財天を厚く信仰していた杉山検校(管を用いて鍼『はり』を刺す管減術の考案者)が、江ノ島参詣の人々の道案内のために寄進したと伝えられている。市内に同型の道標が 11 基(12 基とも)もある。
- ③ 船玉神社 : 祭神・弟橘姫命(おとたちばなひめのみこと)。尾州(尾張の国)津島から安永年中(1712 ~ 1720) 渡海侯(藤沢地誌)とあり、かつてこの地は、源頼朝が宋に渡る船の用材を切り出した所と伝えられ、乗船成就、海上守護の願いにより、勧請された。この辺りは大鋸(だいきり)といい、大きな綱引き鋸を使う職人町だった。
- ④ 感応院 : 真言宗の寺。本尊・不動明王、藤沢最古の寺院。相模の国八十八ヶ所一番。開基は源実朝という。慶久 4 年(1609)幕府より檀林所(仏教学研究所)に指定され、慶長 2 年(1649)朱印地を賜る。頼朝が富士の裾野で狩りを催した時、旅の厄除けに三島神社を勧請した。この神社は自由に回転できるようになっている珍しいもの。
- ⑤ 山王神社 : 山王大権現を祀る。 境内裏手に庚申塔がある。
- ⑥ 諏訪神社 : 祭神・事代主命・恵比寿様。遊行四代藤沢山開基吞海上人諸国修業の折、信州より移し来たり、正中 2 年(1325)山中に鎮護した。文政元年(1818)新宮再建。近年祭礼に大切な死神剣(四方の神、即ち東は青龍、西は白狐、南は朱雀(朱の鳥)、北は玄武(亀)の四獣。
- ⑦ 江戸方見附 : 藤沢宿の江戸からの出入り口。遊行寺山門北へ数 10.m。
- ⑧ 山谷の一里塚 : 日本橋から 1 2 番目の一里塚。遊行寺東門から北に約 200m。
- ⑨ 遊行寺(ゆぎょうじ) : 踊り念仏で知られる一遍(いっぺん)上人を開祖とする時宗の総本山。正式には清浄光寺(しょうじょうこうじ)といい、正中 2 年(1325)、遊行四代吞海(どんかい)上人が創建したのが始まり。
- ⑩ 真徳寺 : 遊行寺境内にある別院の一つ。俗に赤門と呼ばれる。目立つ赤門をくぐると、質素な本殿がある。
- ⑪ 真浄院 : 遊行寺山内の筆頭寺院で、本山役僧が住職を務めていた。講中宿泊所でもあった。
- ⑫ 地藏院(日限地藏) : 遊行寺総門西側にあり、日数を限って願掛けすると、願いがかなうといわれ、日限地藏とも呼ばれた。
- ⑬ 藤沢御殿跡(藤沢公民館) : 江戸時代初めごろ、藤沢にはまだ本陣がなかったので、将軍(家康)自ら宿泊場所として、藤沢御殿を建てたが、慶長 5 年(1600)家康が宿泊して以来、寛永 1 1 年(1634)に、家光が宿泊したのを最後に廃止となり、公民館になった。
- ⑭ 庚申塔群 : 陣屋小路講中の庚申塔がここに集められている。
- ⑮ 妙善寺 : 日蓮宗の寺。本尊は日蓮大菩薩。墓地の一角には本陣を務めた蒔田家の墓地がある。
- ⑯ 伝・義経首洗い井戸 : 奥州平泉で討たれ、送られて来た義経の首を、首実検の後、片瀬浜に捨てられたが、潮乗って境川を遡り、里人が救いあげてこの井戸で洗い清めたという伝承による。
- ⑰ 白旗神社 : 藤沢西総鎮守。祭神は寒川彦の命ほか。例大祭には、上記義経と弁慶 2 基の神輿が町内を練り歩く。 また秋祭りには、面をつけた山の神が道化を演じながら参拝者に餅をまく、「湯立神楽(ゆたてかぐら)」という独特の神事が知られている。

→小田急・藤沢本町駅=田=J R 藤沢駅(又は更に J R 大船駅へ)

(駅付近で昼食・解散)

最中「笹りんどろ」
 白旗神社の御社紋をかたどった皮に程良い甘さの餡が絶妙です。
 第十八回全国菓子大博覧会で
 ◆名誉金賞を受賞◆
 菓子舗 **古美根**
 藤沢市藤沢3-6-37
 0466-22-3929



トランスボックス・ラッピング
 電柱の地中化に伴い設置されたトランスボックスに、まちの変遷してきた姿や浮世絵などをラッピングしました。このトランスボックスを見て、地域の方々にはこの地の歴史を学び、郷土愛醸成のお役に立ていただき、訪れるの方々には藤沢宿に親しみを持っていただければと思います。
 藤沢地区郷土づくり推進会議



東海道歴史探訪14
藤沢宿(1)
 2017.7.5

